

2 0 2 4年 度

事 業 報 告 書

自 2 0 2 4年 1月 1日

至 2 0 2 4年1 2月 3 1日

公益財団法人 競走馬理化学研究所

I 概要

わが国の競馬は中央競馬、地方競馬ともに安定的に実施されており、その発売金は2012年から連続して増加している。

こうした状況の下、競走馬理化学研究所は、競馬の公正確保等に必要な各種検査を実施し、また、検査法の改良や開発、その他の調査研究を実施した。

薬物分析事業では、新たに開発した馬の薬物検査法を用いて、国内競馬主催者からの依頼に応じた競走後検査及び競走外検査を実施し、また、国内外の馬術競技馬の検査、海外競馬検体の検査、競走馬に用いる飼料の検査、騎手の検査及びその他各種の検査を実施した。さらにISO/IEC 17025の認定維持に必要な再審査を受審するとともに、薬物分析法等に関する調査研究を行った。

遺伝子分析事業においては、血統登録機関、競馬主催者、競馬関係団体、馬所有者等からの依頼に応じて、馬の親子判定及び個体識別検査、遺伝子ドーピング検査、遺伝子改変検査、馬伝染性子宮炎検査、競走馬の遺伝子検査等を実施した。さらに、遺伝子分析等に関する調査研究を行った。

国際リファレンスラボラトリー体制強化事業では、国際競馬統括機関連盟（IFHA）及び国際馬術連盟（FEI）のリファレンスラボラトリーの指定を将来とも安定的に維持することを目的に、高度分析機器の整備、標準品等の購入、外国人分析化学者の雇用及び職員の海外研修を実施した。

II 事業内容

1 薬物分析事業

1) 競走馬の薬物検査

(1) 競走後検査

競馬主催者から依頼された 47,380 件の競走後の検体について、禁止薬物及び規制薬物の検査を実施した。その結果、禁止薬物 1 件及び規制薬物 9 件の陽性を認めた。また、4 月から規制対象となる薬物の陽性を、3 月までに 4 件認めた。

[検査件数の内訳]

主催者等	検査件数	主催者等	検査件数	主催者等	検査件数
中央競馬	10,371				
地方競馬 計	37,009				
帯広市	3,578	千葉県(船橋)	1,908	愛知県(名古屋)	3,730
北海道(門別)	2,370	特別区(大井)	3,125	兵庫県(園田)	3,842
岩手県(盛岡)	1,711	神奈川県(川崎)	2,008	〃(姫路)	712
〃(水沢)	1,837	石川県/金沢市	2,214	高知県(高知)	2,878
埼玉県(浦和)	1,733	岐阜県(笠松)	2,226	佐賀県(佐賀)	3,137

(2) 競走外検査

競馬主催者から依頼された 6,219 件（日本中央競馬会 5,928 件、地方競馬主催者 291 件）の競走外の検体について、アナボリックステロイド等の検査を実施した。その結果は、全て陰性であった。

(3) その他の競走馬の薬物検査

競馬主催者から依頼された来日競走馬、競走後検査の陽性関連、海外競馬主催者から依頼された海外交流競走出走予定馬及び海外競馬 B 検体について、薬物検査を実施した。

2) 飼料及び医薬品の薬物検査

(1) 飼料の薬物検査

飼料業者等から依頼された飼料の薬物検査を実施した。その結果 1 件の陽性を認めた。

また、地方競馬関係者に協力して、競走馬から検出された薬物の飼料混入とその原因究明に大きく貢献した。

(2) 医薬品の薬物検査

競馬主催者から依頼された医薬品の薬物検査を実施した。その結果は、全て陰性であった。

3) 騎手の薬物検査

競馬主催者から依頼された検体の薬物検査を実施した。その結果は、全て陰性であった。

4) 馬術競技馬の薬物検査

国内外の馬術連盟から依頼された検体の薬物検査を実施した。その結果7件の陽性を認めた。

5) セール上場馬の薬物検査

トレーニングセールの主催者から依頼された検体の薬物検査を実施した。その結果は、全て陰性であった。

6) その他の理化学的検査

ばんえい競馬の能力検査及び海外輸出馬の薬物検査を実施した。その結果は、全て陰性であった。

7) 薬物検査法審議委員会及び馬の飼料検査法検討会の開催

(1) 薬物検査法審議委員会委員

氏名	職名等	備考
川原 貴	(公財)日本スポーツ協会 アンチドーピング部会 部会長	
輿石 一郎	(大)群馬大学 名誉教授	
佐々木一昭	(大)東京農工大学農学研究院 獣医薬理学研究室 教授	
本間 浩	(一社)薬学教育協議会 代表理事	
松本 直樹	(大)東京大学大学院 新領域創成科学研究科 准教授	
尾崎 博	(学)加計学園 岡山理科大学獣医学部 教授	3月31日まで
下田 実	(大)東京農工大学 名誉教授	〃

豊島 聰	(一財)バイオロジクス研究 トレーニングセンター 代表理事	3月31日まで
吉田 武美	(公社)薬剤師認定制度認証機構 顧問	〃

任期：2024年4月1日～2026年3月31日

(2) 薬物検査法審議委員会の開催

第60回薬物検査法審議委員会を10月30日に開催し、馬の薬物検査法における新たな検査法について審議され、承認を得た。

(3) 馬の飼料検査法検討会

飼料検査課を事務局とし、外部検討メンバーを交えて馬の飼料検査法について検討を行っている。第3回馬の飼料検査法検討会は今年度開催予定であったが、直接検査法の改正に合わせ、2025年度に延期された。

8) 技能試験への参加

薬物検査機関としての国際的な資格維持のため、公認競馬化学者協会並びに国際競馬統括機関連盟(IFHA)が実施する各々技能試験に参加し、正答率100%の成績を収めた。

9) 薬物分析等に関する調査研究

(1) 薬理学的及び分析化学調査研究

「イメージングマス分析による被毛検査法の基礎的検討」

イメージングマス分析を用いた被毛(たてがみ)中の薬物分析法を検討した。その結果、本分析法は簡便な前処理で迅速に被毛中の薬物を検出できるため、薬物検査の被毛検査に有用である可能性が示唆された。

「エルカトニン分析法の基礎的検討」

骨粗鬆症治療薬のエルカトニンの分析法を確立することを目的に、投与後の血漿から速やかに消失する要因を調べた。その結果、血漿中では安定しているが、肝臓における代謝の影響を強く受けることが判明した。

「ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析(HS-GC/MS)法を用いた総二酸化炭素量(TCO₂)検査法の開発」

薬物検査における総二酸化炭素量の検査において、従来の分析装置が使用できなくなるため、新たにヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析装置を用いた検査法を開発し、検査に適用することとした。

「LC システムの変更によるエリスロポエチン検査法の改良」

エリスロポエチンの確認検査法に使用する液体クロマトグラフ (LC) のシステムについて、高感度な nano-LC から通常の LC への変更を検討した。その結果、検査に必要な検出感度で分析時間を大幅に短縮できることに成功した。

(2) 受託研究

「治療薬物の薬物動態に関する調査・研究」

メピバカインの関節内投与及びジクロフェナクの点眼投与における検出時間を設定することを目的に、投与後の血液及び尿中濃度推移を調べ、両薬物の検出時間を明らかにした。

「検査対象薬物の拡大に関する研究」

低酸素誘導因子活性化薬であるダプロデュスタットを薬物検査の対象薬物に追加することを目的に、薬物検査の検出物質として適切な代謝物を調査した。その結果、血漿、尿及び被毛（たてがみ）の検査検体において、ダプロデュスタットの未変化体が検出物質に適していることが判明した。

また、クッシング症候群の治療薬で蛋白同化作用を有するオシロドロスタットを薬物検査の対象薬物に追加することを目的に、検出物質として適切な代謝物を調査するとともに、同薬物の薬物動態を調べた。その結果、血漿及び尿検体においてオシロドロスタットの未変化体または一水酸化体が検出物質に適していること及びその検出可能期間が明らかとなった。

(3) 調査研究成果の報告及び情報収集

9月にアメリカで開催された公認競馬分析化学者協会 (AORC) 年次総会に4名が参加し、1題の研究成果を発表した。

11月28日に日本中央競馬会本部で開催された第26回禁止薬物問題に関する連絡協議会に、委員1名及びオブザーバー6名が参加した。

その他、国内外の会議及び学術集会に延べ22名が参加した。

2 遺伝子分析事業

1) 親子判定及び個体識別検査

公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル及び公益社団法人日本馬事協会から依頼された8,372件の検体について、血統登録のための親子判定検査、繁殖登録馬及び輸入馬等の個体識別検査を実施した。その結果、日本輓系種などで9件の親子関係が否定された。

2) 毛色検査

公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナル及び公益社団法人日本馬事協会から依頼された検体の芦毛を決定する遺伝子の検査を実施した。

3) 遺伝子改変検査

公益財団法人ジャパン・スタッドブック・インターナショナルから依頼された検体の遺伝子改変検査を実施した。その結果、全て陰性であった。

4) 競走馬の遺伝子ドーピング検査

競馬主催者から依頼された5,979件の検体について、遺伝子ドーピング検査を実施した。その結果、全て陰性であった。

5) 馬伝染性子宮炎の検査

日高家畜衛生防疫推進協議会等から依頼された2,222件の検体について、PCR検査を実施した。その結果、全て陰性であった。

6) 競走馬のスピード遺伝子及び体高遺伝子検査

馬主、調教師及び馬生産者から依頼された検体について、競走馬の距離適性及び体高に関連する遺伝子の検査を実施した。

7) その他の遺伝子検査及び免疫学的検査

ユニバーサルドナー選定のための検査、日本在来馬の個体識別検査等を実施した。

8) 遺伝子検査法審議委員会及び各種検査法検討会の開催

(1) 遺伝子検査法審議委員会委員

氏名	職名等
荻野 敦	(一社) 家畜改良事業団家畜改良技術研究所 遺伝検査部次長
木崎景一郎	(大) 岩手大学大学院獣医学研究科 教授
永岡謙太郎	(大) 東京農工大学大学院農学研究院 教授
平野 貴	(学) 東京農業大学農学部動物科学科 教授
福井えみ子	(大) 宇都宮大学大学院 教授

任期：2024年4月1日～2026年3月31日

(2) 遺伝子検査法審議委員会の開催

第3回遺伝子検査法審議委員会を9月3日に競走馬理化学研究所にて開催し、親子判定・個体識別に関する業務概況及び国際動向、遺伝子ドーピング検査・遺伝子改変検査に関する業務概況及び国際動向について報告を行った。

(3) 各種検査法検討会の開催

10月22日に「ユニバーサルドナー選定のための検査法」、11月5日に「馬伝染性子宮炎検査法」、11月13日に「競走馬遺伝子検査法」及び「毛色遺伝子検査法」に関する検査法検討会を外部検討メンバーを交えて実施し、これらの検査法の科学的妥当性について検討を行った。

9) 技能試験への参加

国際動物遺伝学会 (ISAG) が実施するホースコンパリソンテスト 2024-2025 に参加した。その評価は2025年7月に開催される第40回国際動物遺伝学会大会にて実施される。

10) 遺伝子分析等に関する調査研究

(1) 遺伝学的及び分子生物学的調査研究

「日本サラブレッド集団における SNP 検査パネルの遺伝的多様度の調査」

ISAG において決定した馬の親子判定用 SNP 検査パネルの有効性の評価を実施した。なお、効果的な評価を行うため、調査の対象を日本サラブレッド集団からより遺伝的に閉鎖である対州馬集団に代えて実施することとした。その結果、本パネルが対州馬集団のような閉鎖集団における親子判定においても有用であることが示唆された。

「標的非特異的な遺伝子ドーピング検査法の開発」

遺伝子ドーピング検査の標的がこれまで以上に多数または広範となった場合にも対

応できることを目的に、標的非特異的な検査法の開発を実施した。その結果、プラスミドベクターの特異領域を標的としたデジタル PCR 法等の技術により、検査に応用可能な方法を構築することができた。

「遺伝子ドーピング検査及び遺伝子改変検査の安定的実施に向けた改良」

遺伝子ドーピング検査・遺伝子改変検査の安定的実施において課題となる事項の改良を目的に、検体の保管方法及び検体量が少ない場合の対処方法を検討し、併せて DNA 多型データベースの充実を図った。その結果、各事項に対応できる方法の構築あるいは充実化が完了し、検査法へ関連事項を追記した。

(2) 受託研究

「ドーピング検査のバイオマーカーとなるマイクロ RNA の探索」

造血因子 (EPO) が変動する妊娠期を対象にマイクロ RNA レベルの変動を調査した。その結果、内因性 EPO の変動に関与する可能性のあるマイクロ RNA を探索した。今後、外因性の EPO 投与等による調査により、これらマイクロ RNA がドーピング検査のバイオマーカーとして有用か評価できる可能性がある。

「日本のサラブレッド集団の遺伝的多様性に関する調査」

近年の日本のサラブレッド集団のゲノムレベルの近交度の推移を調査する目的で、2000 年度、2018 年度及び 2022 年度産駒集団を対象とした解析を実施する計画である。2000 年度及び 2018 年産駒の集団間では、近交度の上昇はあるものの緩やかであることが示唆された。次年度に 2022 年度産駒を含めた調査を実施する。

(3) 調査研究成果の報告及び情報収集

5 月にフランスで開催された第 14 回国際ウマゲノムワークショップに 1 名が参加し、1 題の研究成果を発表した。

その他、国内外の会議及び学術集会に延べ 39 名が出席した。

3 国際リファレンスラボラトリー体制強化事業

本事業は、国際競馬統括機関連盟 (IFHA) と国際馬術連盟 (FEI) のそれぞれから 2022 年度及び 2021 年度にかけて認定された国際資格を安定的に維持していくため、研究所のリファレンスラボラトリーとしての体制を強化することを目的とし、日本中央競馬会の助成により 2023 年から 5 年計画で実施している。

1) 分析機器の整備

購入分析機器

分析機器名	数量
ヘッドスペースガスクロマトグラフ質量分析計 (MPS ワークステーション付)	1

2) 標準品等の購入及び陰性検体交換プログラムの実施

海外の競馬・馬術検体を対象とする薬物検査や、陰性検体交換プログラムの実施に必要な標準品 230 品目を購入した。

2022 年度から国際競馬統括機関連盟 (IFHA) がリファレンスラボラトリーに対して実施する陰性検体交換プログラムに参加している。本年度は、アメリカ薬物検査機関の UC Davis から受領した陰性検体を検査したほか、研究所からフランス薬物検査機関の LCH に陰性検体を送付するなど、海外薬物検査機関と相互に陰性検体を交換して陰性の確認を行った。また、試験所としての検査能力の外部評価として、アジア品質保証プログラム (AQAP) による年 4 回 (各回尿検体 15 件) の陰性検体交換プログラムに参加した。

3) 国際業務の体制強化

国際業務の体制強化のため、海外の薬物検査機関で実務経験のある外国人分析化学者を雇用し、海外の競馬主催者及び馬術連盟、薬物検査機関等との連絡、調整、協議等への対応及び国際会議へ参加したほか、AORC 理事会の職権委員に就任し、薬物規制に関する国際的な技術レベルの向上に係る議論等に参画した。

また、将来的にその役割を担える人材を育成するため、薬物分析部職員 1 名を 2023 年 5 月より 2024 年 4 月末まで、イギリス薬物検査機関 LGC へ派遣した。研修期間中 2024 年度においては、フランス薬物検査機関 LCH への 2 回目の訪問、アイルランド (ダブリン) で開催された欧州競馬科学連絡委員会 (EHS LC) メインミーティング参加等により検査技術の情報交換や研究成果の発表等を行った。

4 その他

研究成果の普及、啓発及び学術への寄与を目的に、研究報告、学会発表、論文報告、書籍及び雑誌への寄稿、技術指導、講師派遣、広報活動、企画の監修、見学の受入れを実施した。

1) 研究報告会

2023 年度日本中央競馬会委託研究の成績を報告書に取りまとめ、6 月 27 日に日本中央競馬会宇都宮管理事務所 大会議室において報告会を開催し、研究成果を報告した。

2) 学会発表

学会名 (開催地、開催日)	発表者
EHSLC Main meeting (アイルランド、3 月 20 日～21 日)	南島陽平
日本薬学会第 144 年会 (横浜、3 月 28 日～31 日)	木下賢治、古川貴之、 重松諒、帆保航
第 36 回バイオメディカル分析科学シンポジウム(誌上、8 月 28 日～29 日)	石井英昭
第 49 回日本医用マススペクトル学会年会 (京都、9 月 13 日～14 日)	大沼康平
2024 AORC 年次総会 (アメリカ・シカゴ、9 月 16 日～18 日)	古川貴之
日本ウマ科学会第 37 回学術集会 (東京、11 月 25 日～26 日)	竹本俊佑
第 14 回国際ウマゲノムワークショップ (フランス、5 月 12 日～15 日)	戸崎晃明
第 97 回日本生化学会大会 (神奈川、11 月 6 日～8 日)	戸崎晃明
第 167 回日本獣医学会学術集会 (北海道、9 月 10 日～13 日)	菊地美緒
日本動物遺伝育種学会第 25 回大会 (東京、11 月 23 日～24 日)	石毛太一郎、川手皓貴
第 66 回 JRA 競走馬に関する調査研究発表会 (東京、11 月 25 日)	古川梨紗子
第 47 回日本分子生物学会年会 (福岡、11 月 27 日～29 日)	石毛太一郎、古川梨紗子

3) 論文報告

報告誌名、年、巻 (号)、頁	筆頭著者
J Vet Pharmacol Ther. 2024 Jan;47(1):21-27.	南島陽平
Current Drug Metabolism 2024 Sep;25(7):489-504.	石井英昭
Bioanalysis 2024 Sep;16(17-18):947-958.	石井英昭
Anal. Methods, 2024 Oct;16:8250-8267.	大沼康平
Growth Hormone & IGF Research 2025;80:101628.	清水嘉文
Rapid Commun Mass Spectrom. 2024;38:e9856.	内田大雅
Domestic Animal Endocrinology 2024;89:106879.	菊地美緒
Drug Testing and Analysis 2024; (Online ahead of print).	古川梨紗子
その他共著論文 7 編	

4) 書籍及び雑誌への寄稿等

書籍「Phylogeographic History of Plants and Animals Coexisting with Humans in Asia」(Springer Singapore)」、及び「Testing, Investigation & Interpretation Racing Integrity Handbook (IFHA)」に、分担執筆記事を寄稿した。

5) 技術指導及び講師派遣

公益社団法人日本馬事協会ほか3件の馬の遺伝学的研究に関する技術指導等を実施した。また、国際サラブレッド生産者連盟(ITBF)ほか5件の競走馬の遺伝子検査等に関する講演を実施した。

6) 広報活動

競走馬の遺伝子検査について、JRA ブリーズアップセール(4月23日)で来場者への説明やパンフレット配布を行った。また、セレクトセール(7月8日及び9日)においてパンフレットを配布した。

7) 取材及び見学者の受入れ

朝日新聞ほか2件の取材を受け入れた。また、競馬主催者の役職員、調教師、厩務員、騎手の候補生等を対象に、22件、160名の見学者を受け入れた。

Ⅲ 組織運営

1 品質保証

1) 内部監査及びマネジメントレビューの実施

定期マネジメントレビューを2月1日に開催し2023年度の活動を総括した上で、2024年度における品質目標を設定した。また、この目標に従って行った業務について17回の内部監査及び3回の品質保証試験を実施した。

2) 品質保証に関する研修及びリスクマネジメントセミナー

品質保証の本質を深く理解し、日々の検査業務の品質向上を目的として、6名を外部研修に参加させた。また、リスクマネジメントの基礎を学び、リスクに対する意識の向上と業務への積極的な参画を促すため、役職員に対するセミナーを実施した。

2 法人管理

1) 評議員及び評議員会

(1) 評議員

氏名	職名等
秋元 稔弥	地方競馬全国協会 理事
臼田 雅弘	日本中央競馬会 常務理事
菊田 淳	日本中央競馬会 理事
釘田 博文	国際獣疫事務局 アジア太平洋地域代表
鈴木 基義	全国公営競馬主催者協議会 常任理事
田原 文夫	(株)すかいらくホールディングス 社外取締役
茂木 秀仁	(公財)ジャパン・スタッフブック・インターナショナル 理事

任期：2026事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

(2) 評議員会の開催

評議員会を次のとおり開催した。

第1回評議員会 3月15日

(決議事項)

- 第1号議案 令和5年度事業報告及び決算について
 第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する規程の一部改正について

第2回評議員会 11月29日

(決議事項)

- 議案 2025年度事業計画及び収支予算について

2) 役員及び理事会

(1) 役員

2月22日開催の第1回理事会において坂東常務理事が専務理事に選定された。

役職名	氏名	主な経歴	備考
理事長 (常勤)	安齊 了	日本中央競馬会 監事	
専務理事 (常勤)	坂東 義和	地方競馬全国協会 参与 (公財) 競走馬理化学研究所常務理事 (2月29日まで)	3月1日から
常務理事 (常勤)	側原 仁	(公財) 競走馬理化学研究所 薬物分析部長	
理事 (非常勤)	間 弘子	日本中央競馬会 参与	
監事 (非常勤)	佐藤 信博 岩崎 幸治	日本中央競馬会 新潟競馬場長 地方競馬全国協会 理事	

任期：2024事業年度に関する定時評議員会の終結の時まで

(2) 理事会の開催

理事会を次のとおり開催し、評議員及び役員候補者の選定のほか、定款の規定に基づく事業計画及び収支予算並びに事業報告及び決算、春闘の妥結及び法令の改正を受けた諸規程の改正等について、決議を得た。また、定款及び諸規程の規定に基づく種々の報告を行った。

第1回理事会 2月22日

(決議事項)

- 第1号議案 令和5年度事業報告及び決算について
 第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所役員及び評議員の報酬等の支給に関する規程の一部改正について

- 第3号議案 2024年度第1回評議員会の招集について
- 第4号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職務権限規程の一部改正について
- 第5号議案 専務理事の選定について
- 第6号議案 常勤役員の本俸及び役員手当の改定について
- 第7号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所内部通報制度に関する規則の制定について
- 第8号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所組織規程の一部改正について
- 第9号議案 薬物検査法審議委員会委員の委嘱について
- 第10号議案 遺伝子検査法審議委員会委員の委嘱について
- 第11号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員退職手当支給規程第7条に規定する退職手当の支給について

(報告事項)

- 1) 2024年度第1回財産運用検討会の審議結果
- 2) 令和5年度資金収支予算の流用結果

第2回理事会 6月21日

(決議事項)

- 第1号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所介護休暇に関する規程の制定について
- 第2号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員就業規則の一部改正について

(報告事項)

理事の職務の執行状況

第3回理事会 7月8日 (書面による決議の省略)

(みなし決議事項)

議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員給与規程の一部改正について

第4回理事会 11月14日

(決議事項)

- 第1号議案 2025年度事業計画及び収支予算について
- 第2号議案 2024年度第2回評議員会の招集について
- 第3号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所組織規程の一部改正について
- 第4号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職務権限規程の一部改正について
- 第5号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所職員就業規則の一部改正について
- 第6号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の薬物検査法の一部改正について

第7号議案 公益財団法人競走馬理化学研究所馬の薬物検査受託規程の一部改正について

第8号議案 2025年度競走馬理化学研究所における国際リファレンスラボラトリー体制強化事業実施要領の制定について

(報告事項)

- 1) 2024年度第2回財産運用検討会の審議結果
- 2) 第60回薬物検査法審議委員会の審議結果
- 3) 理事の職務の執行状況

3) 管理業務

(1) コンプライアンス意識の向上

役職員に対するコンプライアンス研修を実施し、コンプライアンス意識の向上及び業務への積極的な参画を促した。また、法令違反行為等を汲み上げられる内部通報制度を構築した。

(2) 各種委員会の開催

研究所事業に用いる化学物資、危険物、生体試料などの特殊性に鑑みて、安全、防火、環境保全に関する各種委員会を開催し、取り組み状況の確認、検証、改善等を行った。

(3) 業務の効率化

所内グループウェアを始めとする各種コンピューターシステムについて、情報の可視化や共有化の観点に立った機能の充実を図り、業務の適時性と効率性を高めた。

(4) 労働環境の改善

社会及び業務の環境変化に対応したより働きやすい職場構築に向けて、所内文書、職務権限、労働条件等に関する規程を見直した。

1) 人事異動

(1) 参 与	就 任	1 名	退 任	1 名
(2) 職 員	採 用	3 名	退 職	3 名
(3) 嘱 託	採 用	3 名	退 職	1 名

役職員等の状況

区 分		1月1日現在	12月31日現在
役員	理 事	4 (1)	4 (1)
	監 事	2 (2)	2 (2)
参 与		3 (1)	3
職員	総 務 部	13 (1)	11
	薬 物 分 析 部	28	27
	遺 伝 子 分 析 部	5	7
	小 計	46	45
嘱託	総 務 部	-	1
	薬 物 分 析 部	17	18
	遺 伝 子 分 析 部	1	1
	小 計	18	20
合 計		73 (4) (1)	74 (3)

括弧内は、非常勤の人数で、内数である。

山括弧内は、日本中央競馬会からの出向者の人数で、内数である。

3 人材育成

当研究所が取り組む施策を着実に実施できる人材を養成するため、以下の研修を実施した。

1) 組織研修

研究所主催による馬生産地研修のほか、外部セミナーの受講又は競馬関係団体主催による研修を対象に職員 17 名を参加させた。

2) 専門研修

学位取得の支援を職員各 1 名に対し実施した。また、外部セミナー又は英会話教室を職員 12 名に受講させ、総務事務及び語学力を向上させた。

3) 一般研修

職員及び嘱託の希望者には資格・語学等の通信教育への参加を支援し、社会人並びに組織の一員としての教養・スキルを向上させた。

4 附属明細書の省略

この事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」に該当する事項がないため、省略した。